

令和4年度 事業報告

1. 事業の経過及びその成果

(1) 事業の状況

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大と収束を繰り返しつつも、社会経済活動が徐々に正常化へと進む中で、緩やかな持ち直しが続いてまいりました。しかし一方で、国際情勢の悪化に伴う世界的な原材料やエネルギー価格の高騰等もあり経営環境は厳しい状況が続きました。

こうした環境のもと、当社につきましては、ホテル事業において新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、鹿島臨海コンビナートの定期修理に伴う宿泊需要の増加や新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場の利用に加え、価格転嫁を進めたことなどにより、宿泊部門において前期比約75百万円(32.0%)、宴会部門においても前期比約49百万円(24.3%)の増収となり、事業全体では前期比約180百万円(21.5%)の増収となりました。

不動産事業につきましては、駐車場利用の増加に伴い前期比約17百万円(4.3%)、施設管理事業につきましても、受託業務の増加により前期比約16百万円(1.0%)の増収となりました。

設計管理事業につきましては、鹿島開発関連事業の進展に伴う受託業務の減少により、前期比約76百万円(18.3%)の減収となりました。

なお、土地管理事業につきましては、ほぼ前期の収益を確保することが出来ました。

この結果、当期の売上高は、約3,481百万円(前期比4.1%増)、経常利益は約338百万円(前期比61.5%増)、当期純利益は321百万円(前期比126.1%増)となりました。

(2) 対処すべき課題

今期におきましては、新型コロナウイルスが5類へ移行するなど感染症の影響は縮小し、宿泊・飲食などの需要回復が見込まれますが、国際情勢の悪化に伴う原材料・エネルギー価格の高騰に加え、人手不足の深刻化など依然として厳しい経営環境が続くと想定されます。

このような状況のなか、ホテル事業におきましては、コロナ後の需要回復を見込み各種プランの拡充や海外エージェントと連携しインバウンドの取り込みを図るとともに、各種フェアやイベントを実施し、売上拡大を図ってまいります。

不動産事業につきましては、鹿島セントラルビルの優位性や利便性などを積極的にPRし、入居率の向上を図ってまいりますとともに、施設管理事業及び設計管理事業につきましては、発注者からの高い信頼性を得られるようこれまで培ってきた技術や知識を活用して、受注拡大に努めてまいります。

さらに、第四次中期経営計画に基づき、計画の各項目を確実に推進し、各事業における売上目標の設定及び進行管理を徹底するなど、きめ細やかなマネジメントによる効率的な運営体制の構築や経費の削減を図り、安定した収益の確保に全社総力を挙げて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。